

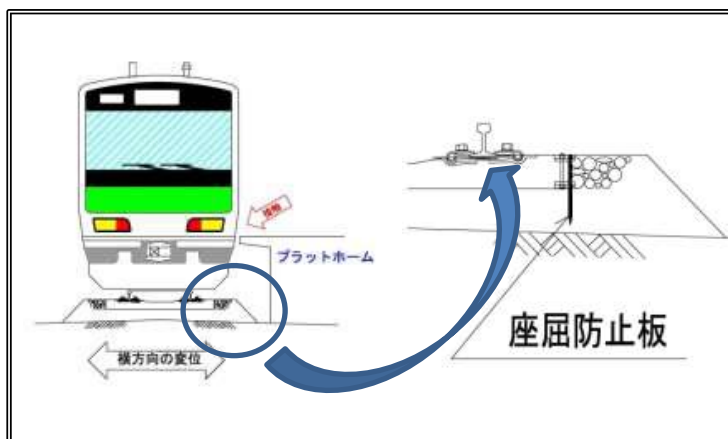
日本の中小企業が南アフリカで鉄道を支える！

～座屈防止板導入で線路の効率的な維持管理を提案～

国際協力機構(JICA)は6月30日、「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」において、林総事株式会社(東京都大田区、林源代表取締役)が提案する「座屈防止板導入による鉄道施設(軌道)の効率的な維持管理の案件化調査」(南アフリカ共和国)を採択しました。

南アフリカ共和国では、鉄道輸送の近代化を進めているものの、線路の老朽化が維持管理の深刻な問題であり、今後、経済発展に伴い鉄道輸送のニーズも増加する傾向にあり、線路の維持管理の改善による定時運行が重要な課題となっています。

提案製品の「座屈防止板」は、バラスト軌道(※鉄道の軌道の構造の一つ。路盤の上に道床バラストと呼ばれる碎石を敷き、その上に枕木を並べ、レールを敷設したしたもの。)における温度変化による横方向への移動を防ぐ器具であり、線路のゆがみを防ぐことで、線路整備作業を省力化することが期待されます。林総事株式会社の打込み型座屈防止板は国内および香港で多数導入実績があり、国内外で特許も取得しています。また、ダクタイル鋳鉄製であるため耐腐食・耐摩耗性が高く、長期にわたり効果を発揮することも特長です。



座屈防止板概要図



南アフリカ共和国ケープタウン中央駅

林総事株式会社は今年9月下旬から現地調査を開始予定で、現地铁道公社の協力を得ながら、製品を同国の線路に導入することがもたらす有効性や実効性を調査します。

この調査は、我が国の中小企業を対象とした「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」として実施されます。案件化調査は、途上国の開発ニーズと日本の中小企業の優れた製品・技術等とのマッチングを行い、製品・技術を ODA 事業に活用するための 情報収集・事業計画立案等を支援することを目的としたもので、2012 年度から実施されており、2016 年度第 1 回分は本年 2 月に公示を行いました。117 件の応募のうち 35 件が採択され、今後の契約交渉を経て契約に至ったものから、順次調査を実施します。

参考:(プレスリリース)案件化調査 2016 年度第 1 回公示の採択結果について

URL:<http://www.jica.go.jp/announce/notice/investigation/index.html>

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 国内事業部中小企業支援調査課 浦野 (案件担当)、橋本 (広報担当)

TEL 03-5226-3243 e-mail : pdtfs@jica.go.jp